

旭川医大 病院ニュース

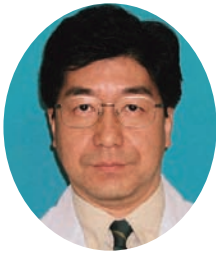


(編集) 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

臨床検査・輸血部 技師長に就任して

臨床検査・輸血部 技師長 友田 豊



平成22年4月1日付けで旭川医科大学病院 臨床検査・輸血部 技師長、副部長および診療技術部 臨床検査・輸血技術部門長を拝命いたしました。本紙面をお借りしてご挨拶させていただきます。

細川前技師長の後任として、当院では5代目の技師長として

早2カ月が経ち責任の重さをひしひしと感じているところです。

私が弘前大学卒業後北海道赤十字血液センター勤務を経て当院検査部に勤務を始めたのは今から27年前でした。当院では検査部内検査室の異動のみならず、病理部、輸血部と中央診療部門間の異動を重ね幅広い経験を積まさせていただきました。今後はこれまでの経験を生かしながら臨床検査・輸血部の運営に心血を注いでまいりたいと思っております。

現代の医療をとりまく環境は急速に変化をしてい

ます。この急速な変化を乗り切るには「変化に対応し、自分自身も変化を受け入れ、永久に変化し続けること」が重要とされています。私たちが臨床からの検査オーダーに応じ検査結果というわれわれにとっての商品を提供している日常業務と、病院という組織の中で臨床検査の立場を考えた時、私たちの顧客は誰であり、検査室の外から期待されていることは何かを考えることは環境の変化に対応するためには必要なプロセスであると感じております。私たちは日進月歩の高度医療を支える検査のプロフェッショナルであることと同時に、患者様、臨床各科、各部門、病院からの日々変化してゆくニーズに対応し貢献していく部門でなくてはならないと思っております。

この5月からは変化の一步として皆さんから要望の多かった輸血用血液補充業務と血小板製剤の受払い業務の24時間化を開始いたしました。少ない人数の検査スタッフではありますが、業務の工夫と効率化ですぐに出来る業務改善から早速取り組んでいきたいと思っております。スタッフ一同気持ちを一つにしてより正確で迅速な検査体制へとChangeし新たな業務にChallengeをすることで新たなChanceを生み出す臨床検査・輸血部でありたいと思っております。皆様方におかれましては、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

安全文化の醸成を目指して

医療安全管理部副部長 専任リスクマネジャー 看護師長
澤田 みどり



医療事故の多発を憂慮した文部科学省は、平成13年度より組織横断的な活動を期待して専任リスクマネジャーを42国立大学病院に設置。その体制整備の一環として、当院では平成14年8月1日に病院全体の医療の質を向上し安全な医療を提供する目的で、医療安全管理部が設置されました。初代 専任リスクマネジャーの加藤千津子看護師長(H13年就任～H17年)、2代目 専任リスクマネジャーの久保田芳江副看護部長(H17年～H22年)に引き続き、4月1日より3代目専任リスクマネジャーとして、両氏らが創り上げてきた医療安全管理部、専任リスクマネジャー業務を引き継ぐことになりました。

「本院では、“人は誰でも間違える”という人間の本質を基に、過ちを誘発しない環境や、過ちが事故につながらないシステムを組織全体として整備し、

安全文化の醸成に努め、安全で質の高い医療を提供する。」ことを基本理念に安全管理体制が整備され、専任リスクマネジャーは、①安全管理体制の構築に参画 ②職員への教育、研修(参加型)を企画、運営

③インシデントレポートからの情報収集、分析、対策立案、フィードバック、評価 ④事故対応と再発防止活動 ⑤安全文化の醸成を主な業務として、組織横断的に活動しています。これらの業務は、職員皆様のスムーズな情報提供によって成り立ち、さらにその分析、対応策が実践され、結果として、「安全管理に関する各委員会活動」「各部門における安全の取り組み発表」「事例検討会」など再発防止のための多くの組織的活動が安全対策として、システムティックに動いています。また、その活動が「診療報酬・医療安全対策加算1」の施設基準を満たし、経済効果と社会的信頼を上げています。

今後、さらなる「医療・安全の質確保」にむけて、インシデント情報の分析と対応策の開示、いつでも誰でもできる安全行動の推進をテーマに、職場の安全文化の醸成に努めたいと考えています。職員皆様の積極的な情報提供が、明日の医療事故の再発防止につながります。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

病院事務部長就任にあたって

病院事務部長 高橋 昭二



4月1日付けで、病院事務部長に採用された高橋昭二でございます。

縁あって、再び旭川医科大学での勤務となりました。

昭和49年に北海道網走南ヶ丘高等学校卒業後、旭川医科大学会計課に7年3ヶ月勤務、文部省勤務となり、その後、高知医科大学、京都大学医学部附属病院、東京工業大学、国立遺伝学研究所、山形大学、大阪大学、宇部工業高等専門学校勤務となり約29年ぶりに

に本学勤務となりました。

当時とはだいぶ状況が変わっており、浦島太郎の心境ではありますが、当時一緒に仕事をさせていただいた方もおりますので、大変心強く思っています。

病院での勤務は2年しかありませんが、これまでの経験を生かしながら、微力ではありますが、旭川医科大学病院のさらなる発展に役立つ病院事務部にしたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

また、今年度から第2期中期計画がスタートする年となり、病院の課題としては、地域医療の拠点として地域連携を計りながら、収支バランスをとり、質の高い医療をどう提供していけるかが課題であり、目標であると考えていますので、皆様のお知恵を借りながら共に取り組んでいきたいと思っております。

Fresh Voice

新人薬剤師としての意気込み

薬剤部 吉田 光一



今年4月より薬剤部に所属となりました吉田光一です。まだまだわからないことが多く、日々勉強の毎日が続いております。私は仕事に対するこれからの意気込みを偉人の引用を用いながら述べたいと思

います。その偉人とはアイザック・ニュートンです。どうして突然ニュートンなのか？実は、1655年に彼が入学したグラマースクールの下宿先がクラークという薬剤師の薬局で、ここで彼は薬品の知識を吸収し、化学を学んだという事実を知ったためです。そんなニュートンから連想することとして万有引力の発見があると思います。有名な逸話で「りんごが木から落ちるのを見て発見した」という話がありますが、その真偽は定かではないらしいです。しかしここから私が学べることは「いかに日常的に起こる

ことに目を向けて物事を考えているか」ということです。実際の業務で薬剤師は処方箋の監査、調剤、最終監査、必要に応じての服薬指導が一連の流れとしてあります。薬剤師が常に気を遣うのが医薬品の適正な使用です。処方箋は正しいか？調剤は間違いな

いかな？患者さんは正しい薬の使い方を知っているか？などです。もし、どこかでエラーやミスがあればせっかくの治療も意味を成さなくなるので注意して仕事をしていますが、ミスは頻繁には起こりません。日常的には大半の処方箋は問題なく調剤され、患者さんへと手渡されます。つまり、仕事をしている時の集中力は常に高くして臨まなければなりません。しかし、注意力だけではミスは見抜けず、多くの知識と経験が必要となります。

ニュートンはどうして万有引力のような大発見をできたのかという問いに対し、「巨人の肩の上に乗っていたからこそ遠くを見ることができた」と語っています。私もこれから本や資料、先輩方から学ばせて頂き、知識と経験を積み重ねて巨人の肩の上に登ることで、医薬品の適正使用に貢献していきたいと考えております。

総合診療部外来初診患者の当日施行検査について

総合診療部看護師 遠藤 久枝
総合診療部部长 奥村 利勝

昨年度に当部初診患者の各種検査を行った状況をまとめましたので、半期の結果を報告致します。調査対象は平成21年4月から10月までの7ヶ月間の全初診患者633名です。総合診療部受付から診察室への呼び込むまでの時間は、前回の病院ニュースで報告した通りですが、診察室で医療面接、身体診察した後に行った初診当日の検査について、独自の記録

をもとに解析した結果を今回ご報告させていただきます。633人中、採血（血液検査）したのは322人（52%）、胸部腹部などの単純X線写真は256人（48%）とこの二つの検査は約半数に行われました。心電図は113人（17%）で、CT/MRI（頭、胸部、腹部など）検査は50人（7%）でした。特殊な血液検査や培養検査の結果持ちで時間がかかる場合を除き、初診当日、外来で診断が完結することが、病院の方針として示されていると理解しておりますが、各検査部署に迅速にご協力いただけていることを再確認し、改めて感謝しております。

新人看護職員研修の努力義務化開始について

看護部教育担当師長 平瀬 美恵子

「保健師助産師看護法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部を改正する法律案」が平成21年7月に成立しました。法改正において新たに、看護職本人の責務として卒業後も自己研鑽すること、また国は、看護職の人材確保の基本指針の中に病院などの開設者にも研修実施と看護職の受講機会の確保への配慮に努める義務があるとされました。

法改正の背景には、少子高齢化や疾病構造の変化、医療の高度化、チーム医療の推進など、看護・医療を取り巻く状況の変化により、看護職に求められる能力・需要が増大していることがあります。一方で、

教育年限は約60年変化がなくカリキュラムが過密となり、その結果、医療現場の期待する実践の能力と新人看護師の臨床実践能力が大きく乖離し、医療安全と新人看護師の早期離職の問題が生じていました。このような時代の要請に対応した資質の高い看護職を養成するための一つに、新人看護職員の臨床研修の努力義務化が平成22年4月から開始されました。

当院でも4月、看護部長が教育担当者33名を推薦し病院長から任命されました。看護部も新人看護職員研修ガイドラインを基に、新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するため組織体制を整え、思考しながら実践している状況です。この研修を進めるには、周囲のスタッフだけではなく看護部全職員はもちろんのこと、病院の他部門の方にも関心、更に御支援・御協力をしていただき支え合い成長していきたいと思っております。よろしく、お願い致します。

がん看護専門看護師養成コースを修了して

看護部 看護師 小倉 笑子



日本は2人に1人ががんになり、およそ3人に1人ががんで亡くなる状況です。患者さんは、がんと告知を受けてから、手術、化学療法、放射線療法と目まぐるしく意思決定の局面を迎えます。一方で入院期間の短縮化の影響もあり、早期に在宅移行を求められます。このような背景において、がん看護専門看護師は、がんとともに生きる人と家族やケア提供者の方々と、治療の副作用やがんによる症状の緩和、苦悩や不安など心理的な問題、生活上の問題について一緒に考え、解決のお手伝いを専門とする看護師です。国内では193名のがん看護専門看護師が存在します（専門看護師全体では451名（がん看護専門看護師を含む）が、北海道の現状はがん看護専門看護師1名と非常に少ないです。

私のがん看護専門看護師を目指そうと考えたのは、複雑な苦悩を抱えたがん患者さんとそのご家族と出会い、先輩や他職種の方々と連携してケアした経験にやりがいを感じたからでした。そんな折、旭川医科大学大学院でがん看護専門看護師養成コースが開講されると聞き、挑戦しました。在学中は多くの人々と出会い、語った「財産」となる時間でした。特に同級生の千葉靖子さん（5W）とは合同課題を徹夜でまとめたことが懐かしい思い出です。大学院では2年間のカリキュラムでがん看護に関する講義・演習・実習・課題研究に取り組みました。卒業後も実務経験を積み、活動報告を行い、筆記試験を経た後に、資格取得となる予定です。

現在私は外来点滴センター看護師として、がん患者さんの治療に伴う症状管理や、セルフケアを獲得されるためのお手伝いをしています。今後、院内のがん医療に関する活動への参画、院内教育・研究活動などを通じて、がん看護専門看護師の資格取得を目指していきたいと思っております。私はがん看護専門看護師を目指す者として今も能力を開発する過程にあります。皆様の御力をおかりして自分自身を成長させつつ、患者さんにとっての最善を目指した支援に取り組みたいと考えます。



旭川医科大学病院緩和ケア診療部 阿部 泰之

がん患者数の増加と社会的なニーズの高まりを受けて、がん医療において緩和ケアを提供していくことが重要な課題となってきました。厚生労働省は、がん対策推進基本計画（平成19年6月15日閣議決定）において「すべてのがん医療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことを目標として掲げ、これら医師が緩和ケアの基本的知識を習得し、がん治療の初期段階から緩和ケアが提供されるように緩和ケア研修会事業を進めています。また、本年4月の診療報酬改定に際して「がん性疼痛緩和指導管理料」や、「がん患者カウンセリング料」を算定する医師は、本研修の修了が要件として盛り込まれました。

当院でも2年前から本研修会を開催し、同事業への積極的な協力を行ってきました。今年度も8月29日(日)、9月5日(日)の2日間の日程で当院主催の緩和ケア研修会を行います。(詳しくは各部署に配布される募集要項をご覧ください。) 日常的にがん診療に従事されている医師に限らず、当院で診療をされている医師やコメディカルの皆様におかれましては、本研修会に参加し日常診療の選択肢のひとつとして緩和ケアを身につけて頂きたいと思っております。この事業によって、何より皆さんが診ておられる患者さん・ご家族の苦痛が少しでも軽減されることを心より願っております。

会場：ロワジュールホテル旭川
(旭川市7条通6丁目)

費用：受講費・無料、昼食費・2000円(2日分)

定員：医師20名、コメディカル10名

対象者：北海道内の(がん診療に携わる)
医師・歯科医師、コメディカル

申込方法：申込用紙にご記入のうえ事務局までメールか
FAXで送付してください
(申込用紙は各部署に配布します)

申込締切：平成22年6月25日(金曜日)

・本研修会のプログラムをすべて修了されますと、医師には
厚生労働省からの「緩和ケア研修会修了証書」が交付されます
(コメディカルには主催者からの修了証書となります)

平成22年8月29日(日)、9月5日(日)

睡眠クリニック(精神科神経科)のご紹介

睡眠クリニック(精神科神経科)
日本睡眠学会睡眠医療認定検査技師
松田 美夏

旭川医科大学病院の睡眠クリニック(精神科神経科)は、2003年日本睡眠学会の「睡眠医療認定医療機関A型」として認定されました。以来、全道各地から多くの患者様が受診されています。

睡眠クリニックには、専用の個室が2つあります。そこでは、睡眠医療専門の臨床検査技師3名がビデオ・ポリソムノグラフィ検査を年間約200件実施しています。

ビデオ・ポリソムノグラフィとは、夜間睡眠中の患者様の脳波、眼球運動、おとがい筋筋電位、呼吸(鼻、胸、腹)、心電位、動脈血酸素飽和度、前脛骨筋筋電位などを調べる検査法です。これによって、睡眠中の異常現象(睡眠時無呼吸症候群や睡眠中の

寝言、徘徊、てんかん発作など)、さらには不眠の原因や生体リズムの障害も分かります。

睡眠への社会的関心が高まってきている昨今、ビデオ・ポリソムノグラフィは確定診断をする上でますます重要な検査になります。しかし、現在、この検査を実施できる大学病院は北海道では旭川医大しかありません。私たち3名が、北海道の睡眠医療の発展に微力ながら貢献できれば幸いです。



睡眠クリニックの検査室にて
左から田中千渚技師・松田美夏技師・白田朱香技師

【薬剤部】

副作用情報 (56)

薬 剤 性 膵 炎

急性膵炎は、膵臓内で産生・貯蔵された消化酵素が、何らかの原因によって活性化され、膵臓の内部および周囲を自己消化することにより急性病変を生じることにより起こる。多くは可逆性であり、臨床的症狀が回復した後6ヶ月で、膵臓の状態は機能的・形態的にほぼ回復する。成因は、アルコール性、特発性、胆石性が三大要因であり、これらで全体の80%以上を占める。薬剤性の急性膵炎は急性膵炎症例全体の2~5%を占めると考えられている。小児では薬剤性急性膵炎が急性膵炎症例全体の13%にも達する。

薬剤性膵炎発症の起因となり得ることが確実な薬剤として、アザチオプリン、メルカプトプリン(6-MP)、メサラジン(5-ASA)、メトロニダゾール、フロセミドなどがある。発症機序は、投与された個

体側の感受性が関与すると考えられている。すなわち、アレルギー機序によるもので、薬剤あるいはその代謝産物が生体内高分子化合物と結合することで抗原性を獲得し免疫応答を惹起する。発症には個人差があり、用量非依存性である。発症までの時間は、投与から1ヶ月以内に発症することが多い。しかし、再投与の場合、短期間(1~3日)で発症することが多く、これらの薬剤の膵炎発症に対するアレルギー機序を裏付ける。

一方、薬剤の代謝産物の蓄積と個体側の感受性が発症に関与する薬剤性膵炎がある。バルプロ酸やエストロゲンなどが該当するが、これらは投与から比較的長時間を経て発症する。発症に個人差があることより、薬剤の代謝産物に対する個体側の感受性が重要と考えられているが、病態は明らかではない。

薬剤性急性膵炎の症状、臨床経過は他の原因による急性膵炎と差異はないが、転帰に関しては薬剤中止により軽快し得る点が大きく異なる。再発予防のためには、同一薬だけでなく、類似構造をもつ薬剤の投与は避けることが重要である。

(薬品情報室 大滝 康一)

輸血部門発

RCC、FFP在庫補充開始と
PCの供給体制の変更

「あれ?!在庫のRCCがない!!」時間外に3F輸血部門で血液製剤の持ち出し登録をしようとした時に、そういった経験をされた方がいると思います。今までは、在庫のRCCやFFPが不足した場合、先生方から血液センターへ血液製剤の発注をして頂いていました。しかしながら、昨年実施された大学間相互チェックにおいて時間外休日の血液製剤の管理・供給体制について指摘されたことを受け、臨床検査・輸血部の改善策として、5/1(土)より緊急検査室の臨床検査技師が補充・発注業務を開始しました。在庫が長時間、空になるという状況は回避できるようになりましたが、時間外のRCC、FFPの持ち出し登録は、従来通り3F輸血部門での操作をお願いしなければいけません。オーダーした血液が輸血部門の在庫血液で間に合わない時は、在庫分の製剤で持ち出し登録を行い、緊急検査室までお持ち下さい。そして、不足分の血液については再度オーダーして下さい(例;RCC10単位をオーダーしたが、在庫には6単位しか

なかった場合、まず6単位を持ち出し登録し、不足分の4単位について再度オーダーして下さい)。技師が再オーダー分の不足血液の発注、交差適合試験、出庫登録を行います。使用準備ができ次第、電話連絡しますので、お手数ですがどなたか緊急検査室まで取りに来て頂きますようお願いいたします。出庫登録まで完了していますので、到着確認、患者照合をすると輸血が可能です。

また、時間外の血小板製剤の発注と出庫処理も5月10日(月)17時より緊急検査室の臨床検査技師が行っています。これからは血小板輸血のオーダーを行い、緊急検査室に血小板輸血オーダーを入れたことを連絡して下さい。技師が血小板の発注・出庫登録を行った後、病棟もしくは手術室へ電話連絡しますので、緊急検査室まで取りに来て下さい。到着確認、患者照合をすると輸血が可能です。従来のような、先生方から血液センターへ直接発注し、病棟にPCが届いたら、3階に来て持ち出し登録をして…といった手間は省けるようになりました。

時間外の体制については、まだまだご不便を感じさせるかと思いますが、よろしくお願い致します。

(花田大輔・紀野修一)

病院ボランティア

宮 崎 晃

大学病院のボランティアの導入は、平成11年4月から始まり、今年で12年目になります。ユニフォームも当初エプロンであったものが現在はベストになっています。現在、45名の会員が活動しています。

活動内容も正面玄関ホール、初診受付、再来受付機、院内施設案内、お見舞いの方の案内、入退院案内、中央採血室、体の不自由な方の介助、また小児科病棟での絵本の読み聞かせ、病院ライブラリーでの本の貸出など多様です。

「一声かける、あいさつ、その先から活動が始まる。」
「あなたから、いつも先に、続けて。」

患者さんとの短い出会いの中で大切にしていることは「正しく、適切な接遇」、元気よく「あいさつ」、笑顔で「お手伝い」。一声を忘れないように。「気をつけてお帰り下さい。」この一声を大切にしています…自然体に…。

活動の中で気をつけていることは、患者さんに対しては対等な人格として接すること、医療の専門分野に関して一切ふれないこと、相手の自立を妨げないことなど「患者さんの権利を守る。」ことが病院ボランティアの心得です。

ボランティア一人ひとりの考えも違いますので共通理解をしながら、外来患者さんに、安心して受診していただけることをモットーとして活動しています。

また、入院の患者さんを励ましたいという気持ちから「あいさつ」と一声をかけています。病院へ初めて来た患者さんには、不安と戸惑うことが数多くあります。

ボランティアは、初診受付の手順、院内の案内などを同じ目線で説明をします。患者さんが、病院で初めて接するのがボランティアです。「玄関は、人の顔」とか。責任の重い仕事です。

活動を通して、人のために役立ちたい、人に必要とされる、この喜びに自己満足せず、常に向上心を持って患者さんに接したいと思っています。

短い出会いから始まる人とのつながり、支えあえることの素晴らしさ、人の強さに出会い、病院ボランティア活動から学び、知ることができました。

「患者さんが、私の先生」です。

患者さんからの「ありがとう」の言葉と笑顔に励まされています。病院職員の皆さまの、あたたかい支えに感謝しています。



平成21年度 患者数等統計

(経営企画課)

区 分	外 来 患 者 数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病床)
	初 診	再 診	延患者数								
1月	1,386	25,644	27,030	1,422.6	71.60	60.89	15,115	487.6	80.99	82.08	15.94
2月	1,297	25,300	26,597	1,399.8	71.62	59.98	14,824	529.4	87.94	89.96	15.84
3月	1,631	30,216	31,847	1,447.6	72.12	61.56	16,631	536.5	89.12	88.00	15.45
計	4,314	81,160	85,474	1,424.6	71.80	60.87	46,570	517.4	85.95	86.57	15.73
累計	17,883	329,943	347,826	1,437.3	71.58	60.11	189,884	520.2	86.42	86.45	16.33
同規模医科大学平均	18,110	241,272	259,382	1,073.3	85.75	57.65	186,667	511.4	84.21	84.82	17.22

去る3月19日(金)、かねてから病氣療養中の小児科学講座 藤枝 憲二 教授がご逝去されました。

平成12年11月に本学の小児科学講座教授に就任して以来、小児科長、周産母子センター部長を歴任され、本院の医療体制整備について多大なる貢献を賜りました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

時事ニュース

News

4月6日(火)…入学式

5月1日(土)～12月20日(月)

…病院食堂棟新築工事

5月9日(日)～15日(土)…ふれあい看護週間

5月12日(水)…看護の日

平成22年度 広報誌編集委員会委員

委員区分	氏 名	所 属	職 名
1 委員長	廣川 博之	経営企画部	教 授
2 委 員	堀川 道晴	産科婦人科	講 師
3 委 員	石子 智士	医工連携総研講座	特任教授
4 委 員	古谷野 伸	小児科	講 師
5 委 員	友田 豊	臨床検査・輸血部	副 部 長
6 委 員	小野 尚志	薬剤部	薬 剤 師
7 委 員	伊藤 廣美	看護部	副 部 長
8 委 員	堤 政嗣	総務課	課長補佐
9 委 員	両國 琢之	経営企画課	係 長